

お子さんが新型コロナウイルスに感染したときの見守るポイント

お子さんの新型コロナウイルス感染症は、1~3日程度のかぜ症状ですむことがほとんどで、多くの場合は軽症です。

ただし、脱水・呼吸困難・けいれんを伴う時は要注意です。

クループ症候群※¹や熱性けいれん※²を伴うお子さんもいます。

基礎疾患のあるお子さんは、まずかかりつけ医に相談しましょう。

ここで紹介するポイントを参考にして、お子さんを注意深く見守ってください。



自宅で見守ってよい状態

熱が高く(38℃以上)、咳をしたり、不機嫌でも、水分が摂れていて、機嫌よく遊んだり、表情が普段通りであれば基本的に心配はありません。自宅で様子を見守れる可能性大です。

【脱水の予防法】経口補水液(OS-1、アクアライトなど)を飲ませてください。吐き気があるときは少量ずつ、短い間隔で飲ませてください。

【発熱への対処】発熱に加えて不機嫌・不快感があるときは解熱薬(アセトアミノフェン)を使ってください。続けて使う時は5~6時間の間隔を空けることを守ってください。

受診相談をしたほうがよい状態(担当保健所などに相談)

- ・水分がとれず、または嘔吐や下痢が頻回で、口の中が乾いている、半日以上おしっこがでていない。
- ・呼吸が苦しそう。(肩で息をする、ゼイゼイしている、咳で眠れない)
- ・呼吸が速い。(1分間に、乳児：50回以上、幼児：40回以上、学童：30回以上)
- ・声がかすれたり、犬が吠えるようなケンケンする咳がある。
- ・胸の痛み、動悸、息切れ、むくみなどがある。
- ・横になることができない、座らないと息ができない。
- ・生後3か月未満の赤ちゃんで38℃以上の発熱が数時間以上続いている。

救急車を呼んだほうがよい状態

(その際に新型コロナウイルスにかかっていることを伝えてください)

- ・けいれんをしている。(手足を突っ張る、ガクガクする、眼が上を向いている)
- ・呼びかけに反応が明らかに弱い、または返事がない。
- ・ぐったりしており、顔色が明らかに悪く、唇が紫色になっている。

※1：クループ症候群

のどの奥が感染により腫れてしまうことで、声がかすれたり、犬が吠えるようなケンケンするかん高い咳がでたりする病気です。ひどくなると息苦しくなります。クループ症候群を疑う症状がでた場合は医療機関を受診しましょう。

※2：熱性けいれん

お子さんが発熱した際におこる、けいれん発作です。多くの場合は数分程度でおさまり、過剰な心配は不要ですが、髄膜炎など別の病気が隠れていないか判断する必要があるので、けいれんした場合は医療機関を受診しましょう。